
免疫が無いと無理な話

NATA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

免疫が無いと無理な話

【著者名】

IZUMI

【作者名】

NATA

NATA

【あらすじ】
女と男の反応の違いを実話を元に書いてみました。よければどうぞ。

(前書き)

mixiニュースの『異性がこれにはまつていっても許せる趣味ランキン

グ2009』を見て、実際の話を元に書いてみました。ブログの流用なので変にメッセージあつても「愛想で許してください。

彼氏の部屋はとても綺麗な部屋で男の一人暮らしとは思えなかつた。スーツはハンガーに掛け、本は床に置かず、ちゃんと本棚に巻頭順に入れており、ビールの空き缶もゴミ袋に入れて床に散らばつていなかつた。

彼氏がトイレに行くといつて部屋を出た時、私は彼氏がどんな本を持っているのか、ベットの下を調べてみた。すると、ロリ系漫画が出てきた。

最初は「そういう漫画位読むよね」と思い、さらにベットの下を漁つてみた。すると、今度は雑誌のような厚さのある箱を見つけた。その箱を見て私は鏡が無くても自分の顔が青ざめていくのが分かつた。ただ最初の一聲が、

「何で女人人が裸で手錠されているの？」

しかも見つけたのは実写ではなく、アニメのような女の子だ。私はまさかと思い、彼の押入れを開ける。そこには大中小のダンボールが置かれていた。私はその手前のダンボールを開けはじめた。

中を見るとそこには抱き枕があつた。けれど普通の抱き枕じゃない。アニメのような顔立ちで制服の着た女の子が、制服を乱れながら寝ていた。私は現実を認めたなく、そのダンボールを閉めて他を開いてみた。するとすぐに後悔した。中に入っているのは人形だつた。けれど、リカちゃん人形のようなかわらしい人形じゃなかつた。それは世間一般的に言う「フィギア」。しかも裸のフィギアや大きなうさ耳をつけたマニアックな物がたくさんあつた。

そして彼は戻つて來た。私は慌てて押入れを閉めて何事も無かつたように振舞つた。そして彼氏の顔をまじまじとみた。

「どうした？」

彼をまじまじと見られ、恥ずかしがつていた。彼の顔はかなりの美形なのにと思いながら私はため息を付いた。

「ごめん、オチが思いつかなかつた。

男バージョン

初めて俺は彼女の部屋に行く事になつた。
苦節の3ヶ月、やつと彼女の部屋に行ける心はとてもウキウキ気分だ。

俺は彼女の部屋に訪れる。家に何回か、送る事はあつたがこうやつて彼女の部屋に訪れるのは初めてだ。もう心臓の音が聞こえそうで仕方ない。

俺は勇気を振りしほり、インタホーンを鳴らした。
少しどタドタと騒がしい音が聞こえ、「はーい」とかわいいらしき声が小さく聞こえ、そしてドアが開いた。

「いらしゃい、待つてたよ」

天使の笑顔で彼女は迎えてくれ、今すぐ抱きつきたいと思つた。

彼女は部屋の奥にいざなつてくれた。

俺は彼女の部屋に通されたが、この家は2人きり。もう彼女と重なる事しか頭には無かつた。
彼女は俺が来たことを嬉しいのだろうか終始笑顔だった俺もその顔を見て自然と笑顔がこぼれた。

その後、彼女は手料理を作つてくれた。

彼女の作った肉じゃがはとても甘くおいしかつた。ほっぺにじはん粒をつけていると、彼女は「ついてるよ」と言しながら指をのばし、そのじはん粒を食べた。そして笑顔で、

「もう、子供なんだから」と言つた。この甘い空間は永遠に続けば良いのに思つ。

夕飯、彼女は隣の部屋で食器を洗つていた。俺はする事も無く、ただボーとテレビを見ていた。だが、つまらない番組ですぐに観るのを止めた。

俺は部屋を見るとシンクでかわいらしい部屋で綺麗な部屋だと思つ

た。そんな中、この部屋には似つかない。無機質なダンボールが部屋の隅にあつた。

「何だらう?」

俺は気になり、ダンボールの前に近づく、ダンボールをまじまじ見るとそれは無機質でこのかわいいらしき部屋には異質な存在だつた。そして中身が気になつた。けれど、彼女の物を勝手に漁つてはいけないという気持ちがあつたが、それと同時に何が入つているのだろうと思う好奇心があつた。俺は少し悩んだ後、好奇心に負け、俺はガムテープを剥がし始める。別にタンスの中を開けるわけじゃない。ダンボールくらい良いだろうと心の中で言い訳した。

ガムテープを剥がすと勢いよくダンボールのふたが開いた。俺は中身を見た。けれど俺はすぐに閉め、そして彼女に、「すまん。急に会社を呼ばれた。今日は帰るな」と笑顔で帰つた。彼女は「ちょっと」と文句を言いながらも仕方ないと諦めたのか、「また、遊びに来てね」と屈託ない笑顔で見送られたが、多分、この部屋に来る事は無いと思つ。

俺は夜道を歩きながら最初の頃のどきどきは薄れた。むしろ、彼女のダンボールにあつたBL本とゲームに恐怖を覚えた。それから彼女と連絡を取る事が無くなつた。

（後書き）

結果、

女性は耐える人間と耐えない人間がいる。

耐えない人間は別れるか、脱オタをさせるかのどっちか、または彼女の為に無理やり脱オタする男もいる。

一方、男性は耐えない人間は少なくなく、逃げてしまう方が多い。ある意味、女性のほうが一直線だと思った。まあデータが少ないからなんとも言えないな（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1303h/>

免疫が無いと無理な話

2010年10月22日00時02分発行